



新県立博物館基本構想

概要版



平成20年3月
三重県

今なぜ新博物館か～新博物館整備の意義～

三重の未来を拓く人づくりのための拠点として



県民の自己実現の場、次代を担う子どもたちの育成の場となることにより、三重の未来を拓く人づくりに役立つ拠点をめざします。

三重を知り、三重を学び、三重を伝えるための拠点として

多様な地域性を背景とした三重のアイデンティティ（独自性・個性）を明確にし、地域づくりや地域課題の解決に役立つ拠点をめざします。



三重の豊かな自然と歴史・文化の資産を保全・継承し、活用するための拠点として



三重の自然と歴史・文化の資産を保全し、100年先、200年先に継承するとともに、幅広く活用するために役立つ拠点をめざします。

めざす博物館の姿

新たな「文化と知的探求の拠点」

－ みえの文化力を高め、生かすために －

～人間力の視点から～

県民の自己実現と主体的活動の場となります

- ・生涯学習の拠点となります。
- ・県民参画による博物館活動と文化振興を支える人材の育成をはかります。
- ・次代の担い手の育成をはかります。

～地域力の視点から～

地域づくりや地域課題の解決に貢献します

- ・三重の特性を明らかにし、その魅力を発信する拠点をめざします。
- ・地域づくり、地域課題解決のためのシンクタンクとしての役割を果たしていきます。

～創造力の視点から～

人や地域をつなぐ連携・ネットワークを構築します

- ・県民のグループ・団体等、県内博物館等との全県的な連携・ネットワークの中核的な拠点をめざします。
- ・三重の創造力を高める拠点をめざします。

県立博物館 (昭和28年開館)

- ・老朽化やスペース不足
- ・収蔵環境の面でも資料の劣化が懸念されるなど、博物館機能に大きな支障

三重の中核的な「文化と知的探求の拠点」として、十分な機能を発揮することができる新博物館の整備が必要です。

博物館と公文書館を一体的に整備し、博物館と公文書館のもつ機能を相乗的に発揮させることにより、博物館、公文書館といった枠組みにとらわれない新たな「文化と知的探求の拠点」の実現をめざします。



博物館の基本的な性格

県民とともに成長する
開かれた博物館

三重の自然と歴史・文化を総合的に捉える「総合博物館」

県民の視点で三重の貴重な
資産を守り活用する博物館

次代を担う子どもたちを
育む未来志向の博物館



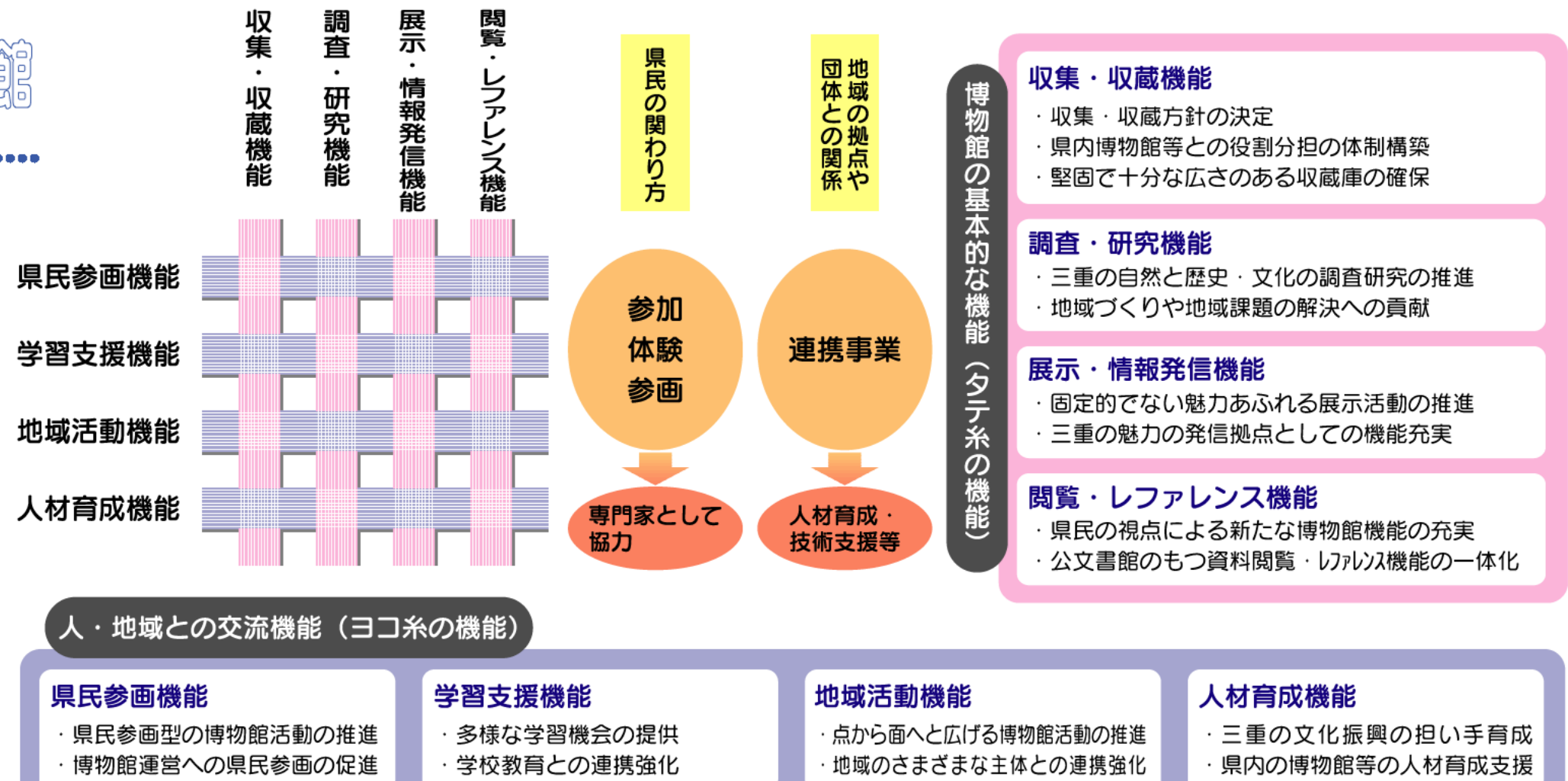
県内の博物館ネットワーク
の中核となる連携型博物館

博物館の機能

旧民参画の視点で機能する博物館 県民参画の視点で機能する博物館

夕テ糸の機能とヨコ糸の機能を
有機的に連動させた博物館機能

県民とともに成長する開かれた博物館を実現するためには、博物館活動全体にわたり、県民参画の視点を取り入れる必要があります。新博物館では、この考えのもと、博物館活動の基盤となる「基本的な機能（夕テ糸の機能）」に対して、県民や地域の拠点・団体等が博物館活動に参画する「人・地域との交流機能（ヨコ糸の機能）」を有機的に連動させ、県民の視点で博物館活動の幅を広げていくことをめざします。



博物館整備の考え方

施設・敷地の規模

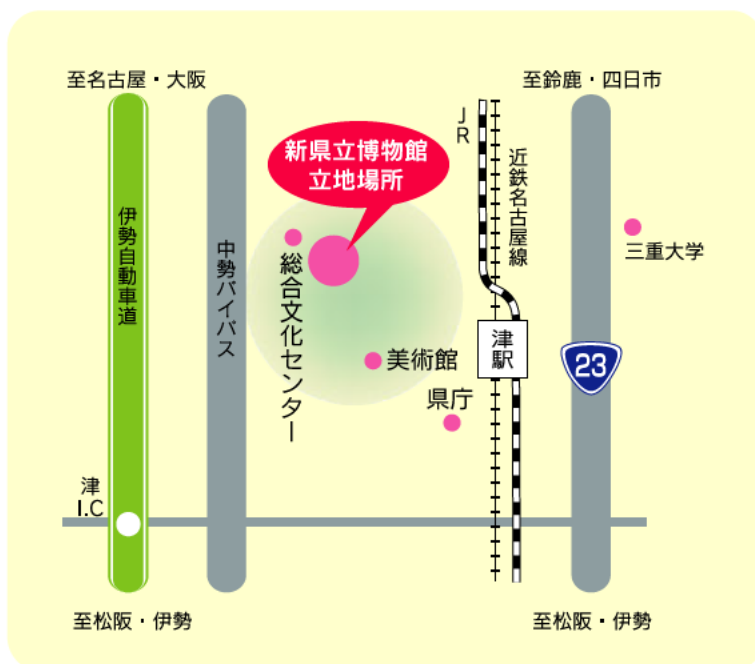
- ・ 建物面積 12,000~18,000㎡程度
- ・ 敷地面積 3ha以上

立地場所

他の文化振興拠点や研究機関等との連携、アクセスの利便性、用地取得の可能性等を考慮しました。

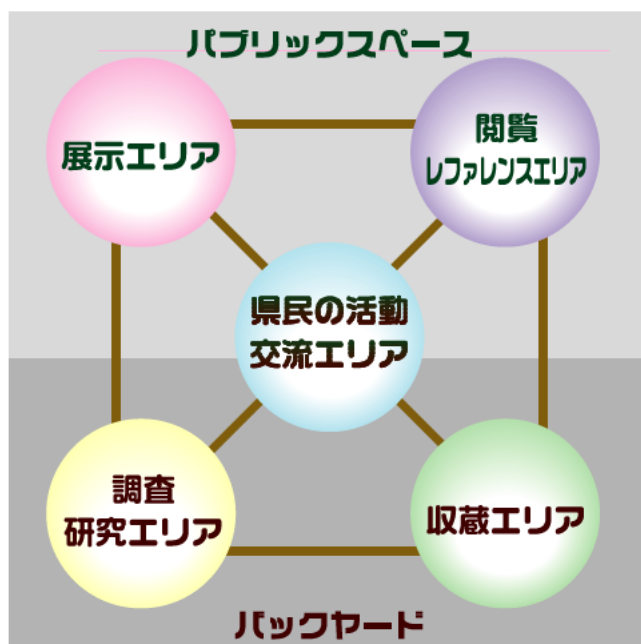


県総合文化センターの南東側に隣接する
「津市上浜町6丁目及び一
身田上津部田地内」



施設構成

- ・ 県民の活動・交流エリアや閲覧・レファレンスエリアの設置など、県民参画型の博物館の機能に必要な施設構成とします。
- ・ 環境保全やユニバーサルデザイン等に配慮した施設とします。



博物館の管理運営の考え方

《組織》

- ・縦割型ではなく横断的に業務遂行できる組織とします。
- ・博物館活動を総合的にマネジメントできる人材を館長に配置します。
- ・連携に必要なコーディネート能力等も持つ学芸員を確保・育成します。
- ・県民等の参画による運営協議会、開かれた組織を検討します。

《運営形態》

- ・効率的かつ長期的・持続的な運営体制を確保します。
- ・自己・外部評価システム導入を検討します。



(参考) 三重の文化振興方針 (平成20年3月策定)

未来の三重を切り拓いていく展開の柱に「文化振興」を位置付け、幅広い施策領域のもとで、文化振興を総合的に推進することとしています。

人、モノ、情報が集積し、県民が活用・活動する場となっている文化・生涯学習施設を「文化振興拠点」として設定し、その機能強化と各拠点間の連携による機能の充実が重要であるとしています。

文化振興拠点のうち、県民にとって身近な活動の拠点を支援する専門性の高い拠点を「文化と知的探求の拠点」（文化会館、図書館、生涯学習センター、美術館等）とし、博物館をその中核的な拠点のひとつとして位置付けています。

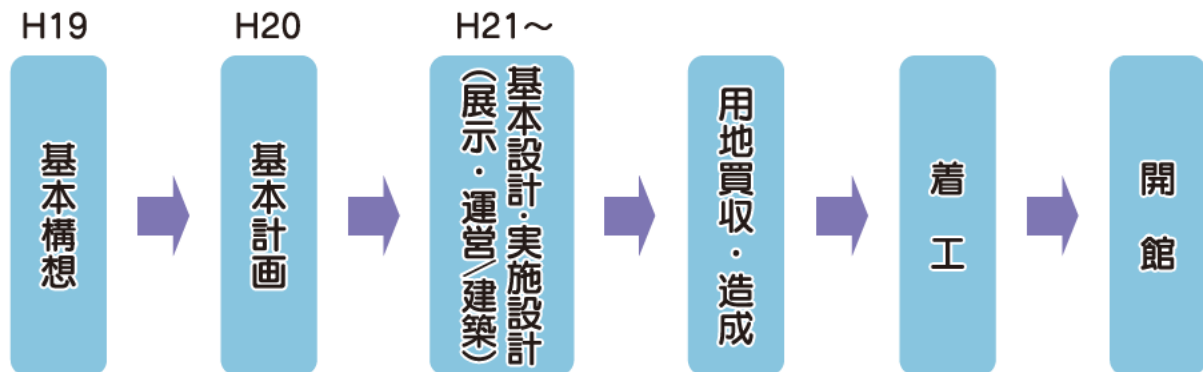
新博物館はこの「三重の文化振興方針」の考え方にそって、「県民とともに成長する開かれた博物館」として整備し、県民参画の視点のもと、その機能を充実していきたいと考えています。

※ 「三重の文化振興方針」については、三重県生活・文化部文化振興室（県庁8階）で配布しているほか、下記ホームページでもご覧いただけます。

URL <http://www.pref.mie.jp/BUNKA/HP/shingikai/>

新博物館実現に向けての進め方

開館までの工程（おおむねのスケジュール）



開館までに行うこと

- ・ 県民参画の促進
- ・ 資料の調査・収集・研究
- ・ 県内の博物館ネットワークづくり
- ・ スタッフの確保・充実
- ・ 学校との連携の推進

今後の検討体制

- ・ 三重県文化審議会に「新県立博物館基本計画検討部会（仮称）」を設置します。
- ・ 検討への県民参画および市町、関係団体等との協議を推進します。

三重県では、新しい県立博物館整備の必要性とそのあり方に関する基本的な考え方をとりまとめ、平成20年3月に「新県立博物館基本構想」を策定しました。

今後はこの基本構想をもとに、より具体的な検討を重ね、平成20年度に「新県立博物館基本計画」を策定します。

その検討段階から、県民の皆さんに参画していただくため、県民意見交換会やシンポジウムなどを開催してまいりますので、ご理解、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

発行：三重県生活・文化部 新博物館整備プロジェクト

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

電話 059-224-2175 FAX 059-224-2408

E-mail shinhaku@pref.mie.jp

URL <http://www.pref.mie.jp/SHINHAKU/HP/>